

【研究ノート】

中国の人口都市化と人口移動(1)

石 南 國

1. 人口都市化の趨勢

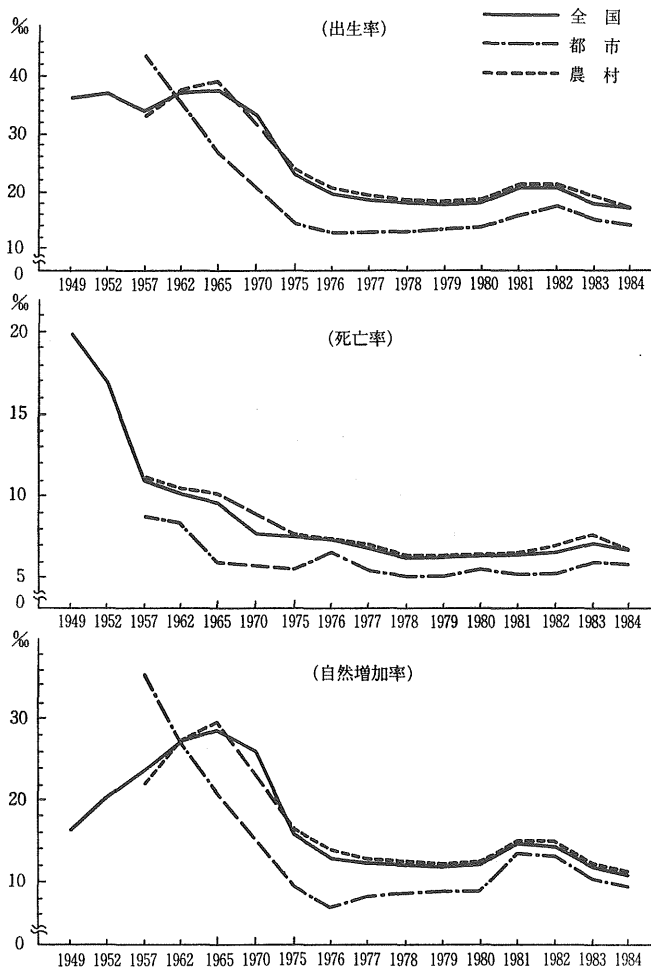
中国では産業構造の高度化がいまだ充分に進まず、農業の割合が産業の大部分を占め、都市的な第3次産業の発達もかなり遅れている。これは一方では都市化がそれだけ遅れていることの証左でもある。しかしこの様相も変わり、4人組追放以来の自由化路線とともに、中国の人口は堰を切ったような急速な都市化過程に入ってきている。本稿ではこの都市化の実態を明らかにするとともに産業構造の高度化との関連を究明していきたい。

第1図は中国の都市と農村の人口趨勢を示したものである。これによると、新政府が樹立した1949年から10年間は都市人口が増大し、都市化が進んだことが認められる。つまり1949年当時は農村人口が中国人口の89.39%、4億8,402万人を占め、都市人口は総人口の10.64%、5,765万人しか占めていなかった。この図によると、最初のピークに当たる1960年には農村人口が増加し5億3,134万に達している。都市人口はこれには当然及ばないが、1949年の人口を倍加した1億3,073万人に増大し、一挙に19.75%の都市化率で増大している。

そして、大躍進政策への住民の巻き込みと農作物不作の頃を底辺とした農村人口の落ち込みに対応するかのようになり、都市人口は上昇してひとつのピークに達する。その後、1962年の早婚反対・家族計画普及運動に始まる第2次人口抑制期と文化大革命に入って、都市化は緩慢な上昇を続ける。第2図にみられるように、1962年までは都市の出生率と自然増加率が農村のそれらを上回っていたが、それ以後は逆転する。農村の出生率および自然増加率が1965年以降今日まで絶えず都市のそれらを上回っている。そしてその結果農村人口は1965年以降1975年まで通増し、それ以後緩慢に上昇するが1982年をピークに急低下する。この急低下は1981年以降の出生率低下と死亡率上昇につながるものである。

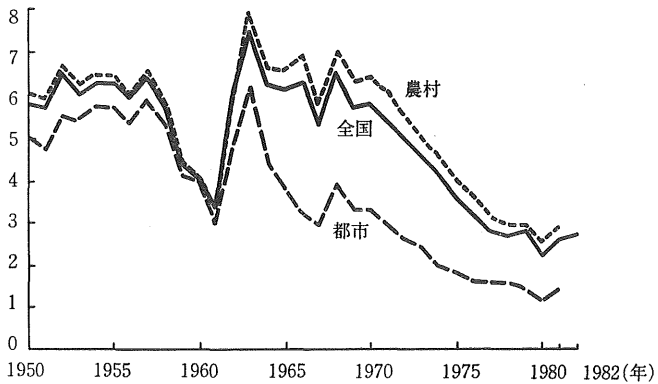
このことは第3図の合計特殊出生率の動きからも読みとれることがらである。緩慢な上昇をたどった都市人口は1980年頃からふたたび急上昇し、1984年には3億3,006万人に達する。実に31.9%の都市化率を占めるにいたる。これも第2図に認められるように、農村以上に都市における自然増加率の急上昇によるものである。この都市の自然増加率の上昇は当然のように都市の死亡率水準の相対的低下に由来している。農村人口は1982年のピーク時には8億0,387万人に達し、

第2図 中国の都市・農村別人口動態率



(資料：第1図と同じ)

第3図 中国の都市・農村別合計特殊出生率の変動

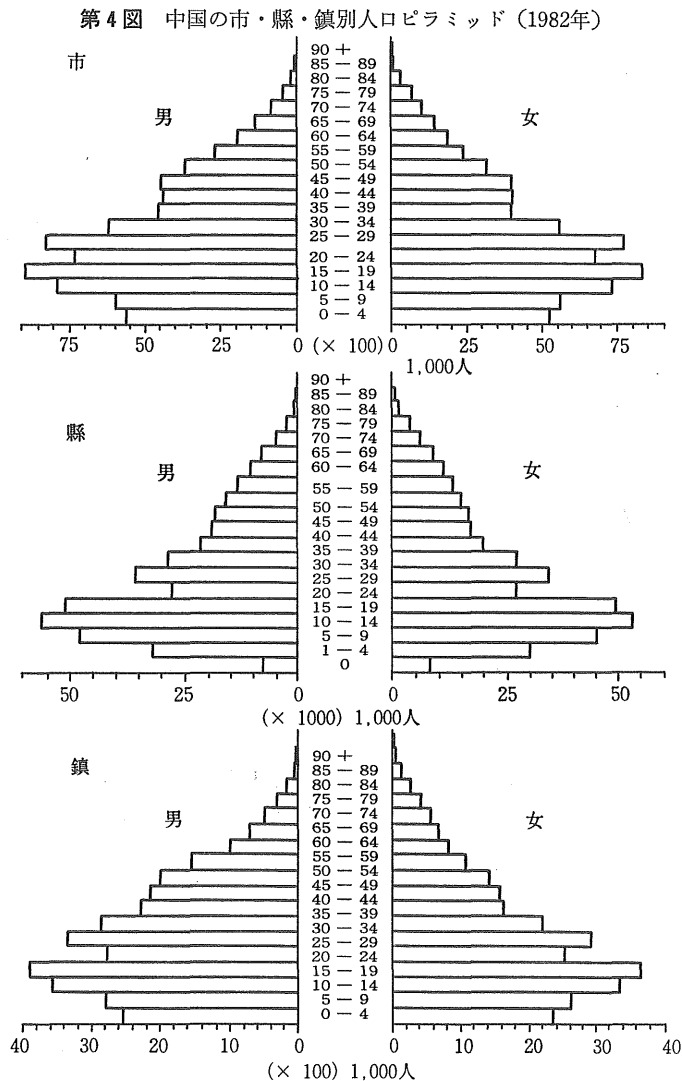


(出所) Coale, A. J., Rapid Population Change in China 1952-1982, National Academy Press, Washington, D. C. 1984.

都市化率を20.83%に抑えていたが、1984年には7億0,469万人、68.10%の農村人口率に落ち込み、反面都市化率を高める結果となる。

これは、1970年代末から1980年代にかけて農村において農業生産責任制が導入され、農家に家族単位で農業を經營することが認められるようになって、労働生産性の上昇とともに農業労働力の余剰の発生とこれが都市人口への流入増加につながっていったとみられているものである⁽⁴⁾。この都市化の傾向は中国において今後とも進むと予想されるが、第1図に試算された単純指数回帰曲線によれば、世紀末には5億4,100万人の規模に都市人口が増大し、45%の都市化率を占めるであろうことが予想される。

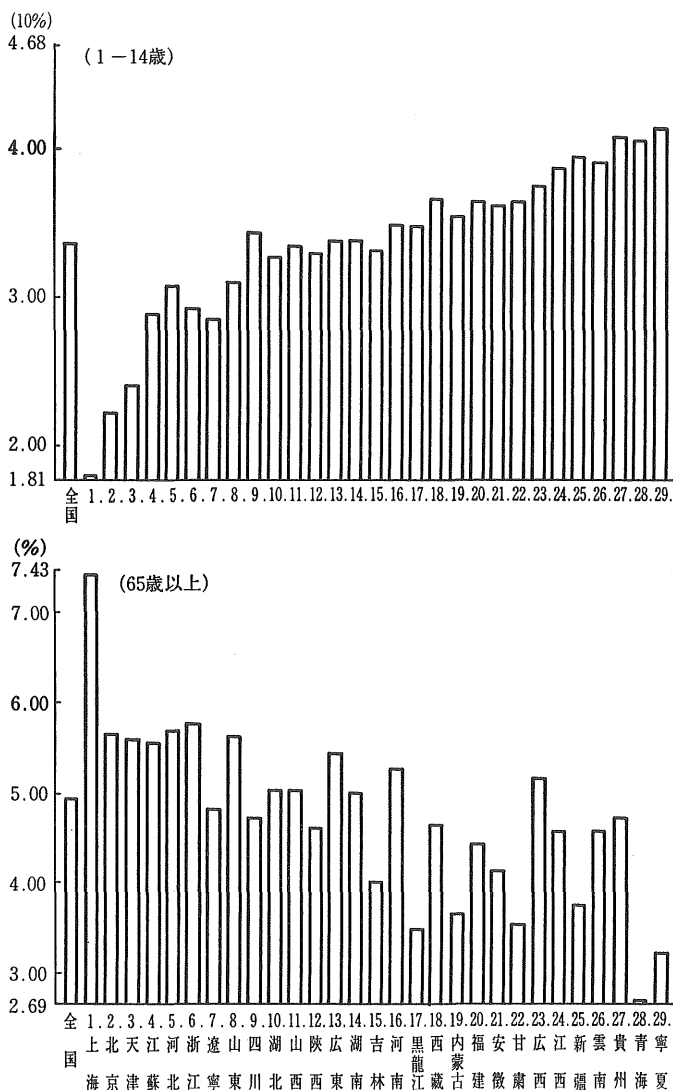
第4図は、1982年人口調査による市・縣・鎮別人口ピラミッドを示したものである。市に加え



(資料) 中国国务院人口普查办公室、国家统计局统计司編『中国1982年人口普查10%抽样资料』1983年11月。

て町に相当する鎮からなる都市部と縣の大部分からなる郡部の人口構造の特質を読みとることができる。市部と鎮部では35～49歳および24～24歳の層に欠損が共通に認められるが、前者は1933年から1947年までの戦前の状況を反映したものであり、後者は1958年から1962年に相当し大躍進政策と農作物不作の時期に当っており、縣部を含めて全国的な現象といえる。もうひとつ特徴的なのは、市部と鎮部では共通して14歳以下の層から人口ピラミッドが<つぼ型>に転じているが、縣部ではタイム・ラグを置いて9歳以下の層から<つぼ型>に転じている。しかも縣部ではこの転換が都市部に比べて急激に起こっている。1975年以降の都市化の急激な進展は、農村部より緩慢な出生率の逡減傾向（第2図および第3図）によるものとみることができる。この傾向は

第5図 中国の地域別老・少年人口比（1982年）



(資料) 第1図と同じ。

1983年および1984年においてもなお強く現れ(第1図), 都市化率は今後一層の上昇が見込まれる。

このような都市化の一方で, 都市部で幼少年人口の割合が小さく, 農村部で老年人口の割合が相対的に大きく現れているのを見ることが出来る。第5図は, 省・市・自治区別に老・幼少年人口の割合を示したものである。人口密集地域の黄河下遊区(第1表)では65歳以上の人口が大きな割合を, そして1~14歳の幼少年人口が小さな割合(第5図)を占めており, これに反してそ

第1表 中国の地域別人口の変動(1933~1983年)

省・市・自治区別	1933年前後 (百万人)	1953年 (百万人)	1982年 (百万人)	1933~ 53年年平 均増加率 (%)	1953~ 82年年平 均増加率 (%)	1983年			
						人 口		人口密度 (1平方 キロ当)	
全 国	463.40	590.75	1,031.88	1.20	1.93	1,042.95 (百万人)			100.00
1. 北 京	2.06	4.14	9.23	3.53	2.80	9.34	黄河下遊区 222.98	21.38	416
2. 天 津	1.50	2.69	7.76	2.95	3.73	7.89			
3. 河 北	25.00	36.14	53.00	1.84	1.31	54.20			
4. 山 東	37.53	48.88	74.41	1.32	1.45	75.64			
5. 河 南	32.67	44.21	74.42	1.51	1.81	75.91			
6. 遼 寧	16.46	20.56	35.72	1.12	1.93	36.29	遼吉黒区 92.05	8.83	114
7. 吉 林	8.00	11.29	22.56	1.73	2.42	22.70			
8. 黒龍江	4.66	11.90	32.66	4.79	3.55	33.06			
9. 山 西	11.56	14.31	25.29	1.08	1.99	25.72	晋陝甘寧区 78.89	7.56	89
10. 陝 西	10.63	15.88	28.90	2.01	2.09	29.31			
11. 甘 肅	5.62	11.59	19.57	3.68	1.83	19.88			
12. 寧 夏	0.40	1.94	3.90	8.21	2.44	3.98			
13. 上 海	5.00	8.50	11.86	2.69	3.02	11.94	長江中下遊 区 261.13	25.04	321
14. 江 蘇	30.00	38.40	60.50	1.24	1.57	61.35			
15. 安 徽	22.43	30.66	49.67	1.59	1.68	50.56			
16. 江 西	17.56	16.77	33.19	-0.20	2.38	33.84			
17. 湖 北	26.55	27.79	47.80	0.24	1.89	48.35			
18. 湖 南	30.23	33.23	54.01	0.48	1.70	55.09			
19. 浙 江	20.54	22.87	38.89	0.54	1.85	39.63	東南沿海区 182.11	17.46	259
20. 福 建	14.32	13.14	25.93	-0.43	2.37	26.40			
21. 台 湾	5.00	7.59	18.27	2.11	3.08	18.00			
22. 広 東	33.70	36.74	59.30	0.43	1.66	60.75			
23. 広 西	11.70	17.59	36.42	2.01	2.54	37.33			
24. 四 川	52.54	65.68	99.71	1.12	1.45	100.76	川黔滇区 162.96	162.96	144
25. 貴 州	11.29	15.04	28.55	1.44	2.24	29.01			
26. 雲 南	11.79	17.47	32.55	1.98	2.16	33.19			
27. 内蒙口	4.50	7.33	19.27	2.47	3.39	19.55	蒙 新 区 32.73	3.14	12
28. 新 疆	2.57	4.87	13.08	3.23	3.47	13.18			
29. 青 海	1.31	1.68	3.90	1.24	2.94	3.93	青 藏 区 5.86	0.56	3
30. 西 蔵	0.80	1.27	1.89	2.35	1.38	1.93			

(資料) 胡煥庸『中国八大区人口増長, 経済発展の過去及未来』華東師範大学出版社, 1986年8月。

他の人口密度の低い地域や人口希薄な地域においては幼年人口がその割合を大きくし、老年人口がその割合を小さくしている。

注(1) 岡崎陽一著,「中国の人口—その出生率と都市化—」『人口問題研究』第174号,厚生省人口問題研究所,1985年,1~18ページ。

2. 人口都市化と人口分布

つぎに,中国の地域別人口分布の状況は,第1表にみられるように,中国8大地区のうち,長江中下遊区が6億6,113万人,黄河下遊区が2億2,298万人,それぞれ総数の25.04%,21.38%を占め,さらに前者が1平方キロ当たり321人,後者が416人の人口密度水準にあつて後者の北京を含む黄河下遊区が中国のなかでもっとも高い人口集積地域となっている。都市としては上海市の人口が1982年の時点で1,186万人の大台に達し,北京市の人口が923万人を数えこれに迫つてゐる。そして天津市が776万人の人口を擁し,世界的な大規模都市へと発展している。天津市は1953~82年の30年間に平均3.73%,上海市は3.02%そして北京市は2.80%の年率で伸びてきている。巨大人口国でこの規模の都市が生まれても不思議ではないが,これまでみてきたように国全体としてはまだ農業人口が大部分を占め都市化の進展はかなり遅れているのを見てきた。このことを考えると,このような一部に極度に偏した都市化は,発展途上国のつねとして当然今後大きな問題を内包したまま進展していくであろうことが予想される。